

野津田公園問題「新年事始め」 フィールドワーク・意見交換会

久保礼子（野津田・雑木林の会）

昨年 6 月 26 日に農村伝道神学校で行われた「修養会」では、神学校に隣接する野津田公園の再開発問題を取り上げていただきました。

農伝と野津田公園との関わりを瀬戸事務長が過去を振り返り詳細に報告。続いて、町田市がいま急ピッチで進めている〈湿生植物園をスケートパーク場に〉〈上の原南入り口の草地を大型バス 10 台駐車場の転回広場に〉の計画について久保が報告しました。



南入り口広場「上の原はらっぱ」中央で話す筆者

先達・地域住民ががんばって公園に残し、生物多様性を保つ貴重な水辺・草地となっている場所が市の計

画によって消えようとしていることをお話しし、自然を残したい思いを皆さんに共有していただき、心強く思いました。

一方、町田市は計画について“情報公開の理念を無視”といわざるを得ません。説明会の告知はごく一部の人たちにのみ、しかも平日・夜・野津田公園会議室において一時間という設定。これについて、当会は「誰でも出席できる時間帯に」と見直しの要望書を提出しましたが、町田市は応じません。

「町田市が丁寧な情報開示を行わないなら、自らで動いて情報を収集、刻々の状況を正確に速やかに広く情報発信しよう」と私たちは考えました。まず、公園南口広場の向いの民有地（野津田公園外周路沿い）に掲示板を設置。野津田公園の季節折々の自然の魅力を写真とデータで伝え、町田市の公園計画の内容と工事スケジュールをわかりやすく説明することにしました。

そして、今年のスタートは 1 月 11 日（土）の「新年事始め」。直接に現地を一緒に歩いて工事計画を確認し、問題点を話し合うことにしました。当日の参加者は、地域の方々・自然を愛す

る親子連れ・野津田公園を長年観続けている環境調査のプロ・環境保護に携わっている市民グループの方・高校生も議員さんも。幅広い層の方々が集まり、貴重な意見交換ができました。公園の工事は着々と準備が進められているようです。

私たちは、今後、より積極的に多くの人たちと共に問題を考えていきたいと願っています。その手法についても積極的に探っていききたいと思うところです。お力添えください。



南入り口広場の向かいに設置した掲示板

農伝竹炭の始まり

高星輝次（農場スタッフ）



を浄化したり、バクテリアの住処となって土壌を改善したりすると言われています。

栗のイガや蓮の実の花炭を焼くのも楽しみの一つです。最近では、近隣のお寺で開催される「お寺でマルシェ」や農伝を会場にして開催される「まちだ里のマルシェ」などで竹炭の販売も始まりました。

最後に、竹を炭に焼いて活用することは実は二酸化炭素の削減につながる「カーボンマイナス」となる行為なのです。これからも竹炭の活用を進めていきます。竹炭に興味のある方、農伝ロビーで販売もしております。お立ち寄りください。

農村伝道神学校（以下農伝）の農地の一角で竹の炭を焼いています。竹はとても成長が早いのが特徴です。春に筍として芽を出して、夏にはもう 10m くらいに成長します。そして 3 年から 5 年で衰えていきます。つまり、竹林を健康な状態に維持するためには間伐をして密にならないようにすることが大切なのです。では、間伐をした竹をどのように活用しようという話になった時に「竹炭を作ろう」ということになったのです。まずは農地の一角に炭窯を作ることから始まりました。土手の傾斜地を活かして、四角に穴を掘り、周りを粘土質の赤土で固めて炭窯もどきを作りました。穴の中に炭の材料となる竹を入れて火をつけ、火がついてきたら鉄板で蓋をして土で覆い、空気取り入れ口と煙突で酸素量をコントロールして、炭化を進めます。

試行錯誤の連続で 2 年半 150 回の炭焼きの結果、今では炭窯の中に蓋つきのステンレスの容器に竹を入れ酸素や風のない状態で、純粋に熱分解することで安定して良質の竹炭が作れるようになってきました。竹炭は極めて小さな穴がたくさん開いていて（多孔質）、竹炭 1g でその表面積はテニスコート 2 枚分といわれています。このため臭いを吸着したり、水



卒業生は いま!

室野玄一先生との思い出

豊島久子（保育科 14 回生）



私は高校卒業後の 1 年間ルーテル聖書学院で学んだ後に、資格を取るため農村伝道神学校の保育科を受けました。入学が決まって自宅にいと、親戚のおばあさんの訪問があり、「どこの学校を受けたの」と聞かれました。この人は叔父の婿入り先のお姑さんで時どき家事を手伝ってくれる人でした。「学校は有名校でないから言っても分からないよ」と言いつつ農伝のことを伝えると、「そこは兄さんのいる学校よ。面接で会ったでしょう」と言われたので驚いてしまいました。そして以前叔父が「おばあさんのお兄さんは牧師さんだよ」と言っていたのを思い出しました。

静岡県伊豆市白岩に住んでいたそのおばあさんは室野家と親しくしており伊豆から時どき来ていました。そして時には私も呼ばれ夕食を共にしたことがあります。室野先生は自然の授業の受け持ちでした。大変だったのは百種の植物を集めることでした。名前の分からない草を持っていくと次々と教えてくれながら「神様のくださった自然の美しさを大切にね」と言われたのを忘れません。先生は子どもさんびかの作詞もして今も教会ではイエスさまがロバに乗るお話のときに歌います。そして私の心に室野先生は生きています。